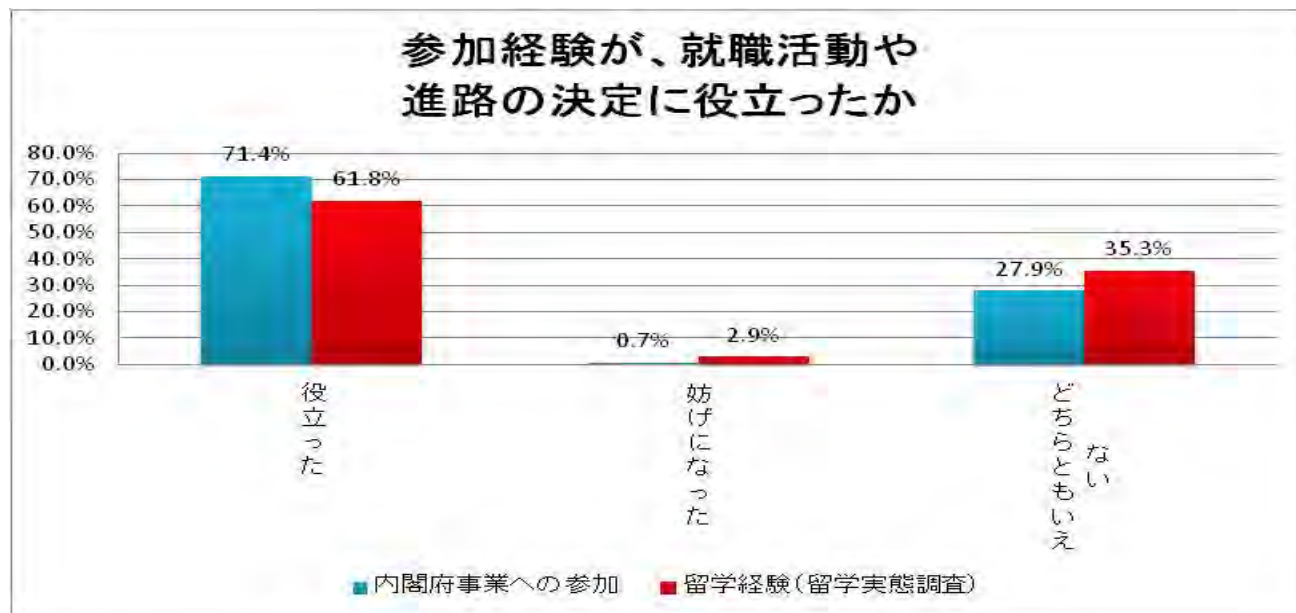


第3章 内閣府青年国際交流事業への参加と社会貢献活動以外の分野との関わり

質問7: 内閣府事業への参加経験は、就職活動や進路の決定のために役立ったと思いますか。

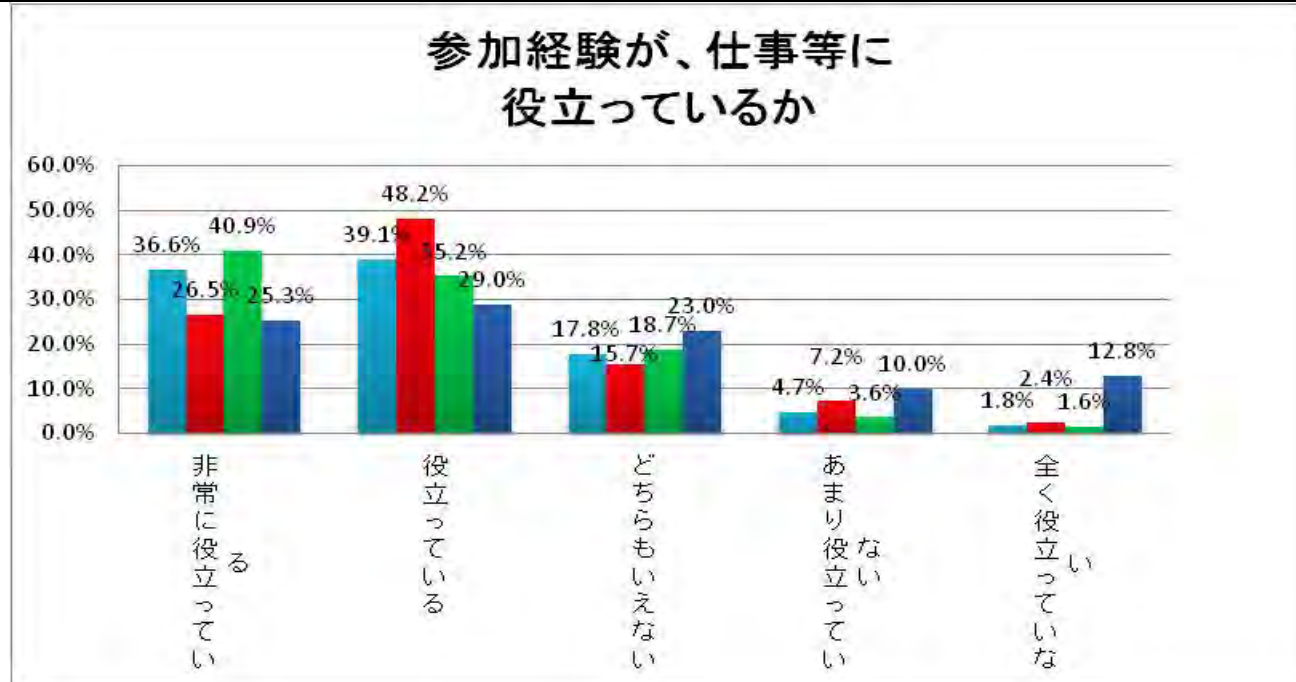
内閣府事業への参加経験が就職活動や進路の決定に役立ったとする者は約7割であり、「海外留学経験者追跡調査」の留学経験者の約6割と比べても、内閣府事業が高い割合で役立ったことがわかる。



【(独)日本学生支援機構「海外留学経験者追跡調査」(平成23年度)Q55との比較】

質問8: 内閣府事業への参加経験は、今の仕事等に役立っていると思いますか。

内閣府事業既参加青年は、参加経験が今の仕事等に「非常に役立っている」「役立っている」とする者の合計が75.7%であり、海外留学経験者の54.3%と比べて、かなり高い割合を占めている。内閣府事業既参加青年の中では、船事業参加者のほうが航空機事業参加者と比べて、「非常に役立っている」とする者の割合が高い。



【(独)日本学生支援機構「海外留学経験者追跡調査」(平成23年度)Q58との比較】

質問9: 質問8で選択した回答に関し、内閣府事業への参加経験が今の仕事等にどのように役立っているか、あるいは役立っていないと思う理由を、できるだけ具体的に述べてください。

事業への参加経験が「役立った」という理由が 190 件、「どちらともいえない、以前は役に立った、まだわからない」3件「役立っていない」という理由が7件寄せられた。「役立った」理由としては、「異文化への理解が深まった」「自分の意見を言う力が身に付いた」「視野が広がった」「事業で築いたネットワークが役立っている」といったものが多く寄せられた。「役立っていない」理由については、「専門としている分野が違うため、直接役に立った実感がない」「直接仕事には結びついていない」という意見であった。

<抜粋して掲載>

| | |
|---|-----------------|
| 事業に参加したことによって、より良い社会を作るのは私たち一人一人の自発的な行動であることに気づき、なにか良いアイデアを思いついた際は積極的に行動するようになった。その際、事後活動で培った行程表の作成手順やアイスブレイクなどが多に役立った。 | INDEX (H20) |
| 青年派遣事業を通して、人は年齢性別ではなく、その目的意識の強さに価値があることに気づく機会を頂けました。そのことは、帰国後、社会生活を送る中でも、非常に重要なことであると確信するに至りました。人への尊敬の念、目的の為に貢献心は、派遣を通して得た一番の成果であると考えております。 | INDEX (H20) |
| 現在、アメリカで大学院に通っているが、異文化に対する興味を強く抱くようになったきっかけが、内閣府事業への参加であった。現在、文化交流に関わる仕事に将来つくことを目的に学ぶにあたって、実経験は何よりの参考例になる。 | INDEX (H20) |
| コミュニケーション力の向上が非常に役立った。 | INDEX (H20) |
| 民間企業なので特に社会貢献や国際交流ということはないが、異文化があるという前提で積極的に他社を理解しようと心がける姿勢や、国益になるような事業をしたいという姿勢面で役に立っていると思う。 | INDEX (H20) |
| 国を代表して人前に立ったり、話したりした経験から人前に出ることが得意になりました。また、事業に参加した他の青年との交流は数年がたった今でも続いており、進路や将来を考える上でいつも刺激をくれる存在です。 | INDEX (H23) |
| お客さんや、上司にも、臆せず自分の意見をきちんと伝えるということができており、参加経験が役立っていると思う。 | INDEX (H23) |
| 内閣府事業でラオスに行ったが、現在、東南アジアに関する業務をしているため、ラオス人と接する機会も多く、実際にラオスへ行ったことがあると言うと大変喜んでもらえ、コミュニケーションをとりやすくなる。 また、事業で知り合ったラオス人の知人と、将来一緒に仕事をするのがありそうなので、今後さらにそのネットワークが活かされると考えている。 | INDEX (H23) |
| 語学力(特に会話)が向上したため、海外営業事務の仕事に就くことができた。また、同世代以外の人々と交流できたため、職場においても幅広い年代の方とスムーズにコミュニケーションをとれている。 | INDEX (H23) |
| 東南アジア青年の船の経験から、大学卒業後、ベトナムに渡り現地の日系旅行会社に就職をしました。ホーチミンで二年半、生活をしました。仕事や私生活で、異文化を受け入れ、理解し、自分の意見を大切にしながら、柔軟に対応できたのはこの事業に参加したからです。現在は帰国し本社にて企画部の仕事をしています。常に東南アジアに関わっており、特にベトナムの修学旅行の企画は自分の経験を活かして、提案しています。 | SSEAYP (H20) |
| 様々な意見や価値観を尊重したり、意見を伝える力が身に付いた。東南アジアの仲間とのネットワークが現在も大きな自信となっている。 | SSEAYP (H20) |
| 現在の業務内容が、主に金融分野に関係しているため、直接の仕事には結びついていないと思う。 | SSEAYP (H20) |
| 日本人としての自覚、語学力、外国人と対峙しても物怖じしない度胸などを身につけることができました。 | SSEAYP (H23) |
| 事業に参加して東南アジアにより興味を持ち、海外で働きたいという気持ちが強くなり、現在海外で働いています。海外青年の存在が海外就職の決め手です。 | SSEAYP (H23) |
| 事業参加がきっかけとなり、貿易業務に携わるようになり、今年タイに駐在が決まった。 | SSEAYP (H23) |
| 東南アジアのグループ会社の多い民間企業で仕事をしているので、それぞれの国の経済などの背景を実際に体感することができ、実際に今も友人の近況を見る中で知ることができるので、役に立っていると思う。 | SSEAYP (H23) |

| | |
|---|-----------------|
| 参加青年たちの姿が、今も感情面や人格面でのロールモデルとして仕事に役立っている。 | SSEAYP (H23) |
| 異文化に対する理解の深さやコミュニケーション能力は、海外とのビジネスに於ける交渉等で役に立っている。 | SSEAYP (H23) |
| 事業に参加したことで東南アジアに興味をもって、仕事でも情報を集めるようになったこと。 英語やそれを使ったコミュニケーションに自信がついて、海外出張等に積極的に立候補するようになったこと。 | SSEAYP (H23) |
| 事業への参加経験は、外国人と仕事をする上でのコミュニケーション能力、異文化理解への姿勢と外国で生活する上での忍耐力・寛容さにおいて役立っている。 | SSEAYP (H23) |
| 私は現在、アメリカで子育てをしながら主婦をしています。子供たちと外に出る機会も多く、交渉力や積極性が必要だと日々感じています。プログラム参加前は恥ずかしくて自分の意見はなかなか言えませんでした。参加して、自ら発する力、積極性等を学ばせて頂きました。その経験が、アメリカで生活する上で日々、役に立っていることは言うまでもありません。分からないことやおかしいと思うことは、その場で直ぐに聞くようにし、問題解決もできるようになりました。 | SWY (H15) |
| 観光地で働いているので、いろんな国の方がきます。そのためその方たちとのコミュニケーションや、サービス、宗教的なものを広く考えながら接客できるようになった。 | SWY (H15) |
| 仕事以外の分野で大変役立っており、逆に仕事と分けることを意識することで、メリハリをつけている。 | SWY (H15) |
| 仕事柄、米国を含み官民多様の機関、人々と接するが、世界船で得た体験が血肉となって大変役立っている。 | SWY (H15) |
| 事業参加経験をいかし、自主事業において国際協力やグローバル教育の実践、青少年育成分野における学術的及び参加機会を多く作るようになっていく。またネットワークをいかし、様々な機会への参画や協力を行うことで、地方や海外、都内において活動の幅を広げることができた。 | SWY (H15) |
| 当初最先端のテクノロジーに興味があったため、「ソフトウェア会社」に就職し、退職して世界青年の船に参加した。参加したことで国際的な仕事をしたいと思い「国際部」に異動した。 また、日本の医療環境をもっとよくしたいと思い、友人と起業し「医療マーケティング会社」を設立。現在でも内閣府事業で知り合った友人と議論を交わすことで、社会問題に対して取り組むことを積極的に行っている。 | SWY (H20) |
| 世界青年の船の事業を通じて、海外＝英語圏から途上国を含む全世界へ視野が広がった。事業後に途上国開発を大学院で学び、その後途上国支援の職業に就けたこともあり、今後も国際的なキャリアを積んでいきたいと思う。 | SWY (H20) |
| 内閣府事業前に就職活動を行い、参加後に就職したので、視野が広がり、考え方が変わった。就職活動前に参加しておけばよかったと思う。 | SWY (H20) |
| 小学校での学級担任として、異文化理解について折に触れて話をする事ができる。また、総合的な学習の時間などで、国際理解の視点で体験談を伝えたり、また、EX-PYとのネットワークを活用して、外部講師として「外国の紹介」、「国際交流として行っている活動の紹介」など授業を行ってもらったりするなどでできた。 | SWY (H20) |
| 現在は公共放送機関に勤務しており、地域の公益に資するイベントを企画・運営している。その際に内閣府事業で得た企画力やリーダーシップ力を存分に活かしている。また、事業の中で多くのユニークなイベントや参加者と接したことで知的見聞が広がり、現在の業務でもより地域の課題に密着してかつオリジナリティ溢れるイベントを提案できている。 | SWY (H20) |
| 事業に参加しなければ出会い得なかった地域の人達と友人関係を築くことで意識の上での国境が無くなり、行動範囲が広がった。 | SWY (H20) |
| 仕事で海外からの情報を集める際に、グローバルなネットワークが役立っている。 | SWY (H20) |
| 世界青年の船参加時は、英語に自信が無く合格したことが自分でも信じられなかったが、青年の船を通して語学以外にコミュニケーションを取る方法があることを学んだ。語学以外の面で海外青年にも認めてもらえたことが自信につながり、新たなチャレンジをするための原動力になったことは間違い無いと感じている。現在、青年海外協力隊としてウガンダで活動しているが、異なる文化圏の青年と生活を共にした経験は、日々の生活基盤を作るうえで役に立っている。 | SWY (H20) |

| | |
|--|-----------|
| 環境が変わっても適応する能力が高まった。 | SWY (H23) |
| 企画や対人の総合能力として役に立っている。 だが、日本企業では言われたことをただこなす能力、あるいは卒なくこなす能力が求められ、それはこれまで意図して磨いてこなかったこと。日本社会での能力とバランスが取れるようになったとき、役立ったと言えると思う。 | SWY (H23) |
| グローバル環境下で共同生活をおこなったことが、現在のアメリカでの勤務に役立っている。 | SWY (H23) |
| 自分に自信が持てるようになったことに加え、得られた人脈を生かして集約的な就職活動をするのができ、本当に就きたい分野で内定を得ることができた。 | SWY (H23) |
| 教員として、子どもたちに世界の広さを教えることができる。色々な考えや文化背景を持った人達がいることを教えることができる。彼らと共にいきていくために、受容や尊敬の念、自らが柔軟になることなどを教えることができる。 | SWY (H23) |
| 様々な異文化に接したことで、「違う」ということについてストレスフリーで自然に受け止めることができている。仕事で様々な人と関わるが、そのお陰で多少のことでも動じなくなった。 | SWY (H23) |
| 世界青年の船事業をきっかけに、多様なライフスタイルを理解し、卒業後すぐに就職するということが全てではないということが分かった。現在は日本の大学を卒業し、アメリカで Hospitality & Tourism Management を学んでいる。日本ではまだ確立されていない学問であり、今後はこの機会をどうやって日本で生かすかを考えていきたい。 | SWY (H23) |
| 日々の業務において、事業を通じて学んだ「できるだけ多角的に物事を捉え、考えること」と、「仕事を自分で抱え込むのではなく、チームとして取り組むことの重要性」が役立っていると感じます。 | SWY (H23) |
| 自分の意見の伝え方や周囲の考え方を尊重して仕事に取り組むことができるようになった。 | SWY (H23) |
| IT 企業に勤めており、インドとのやりとりが多く発生している。船でのインドの PY と多く話せたことが、コミュニケーションで大きな助けになっている | SWY (H23) |
| コミュニケーション能力の向上によって、円滑に信頼関係を構築できるようになったこと、自身の行動により、他人に影響を与えることが多くなったこと、協調性と主体性の両立によって、効率的な議論を行えるようになったこと | SWY (H23) |
| 問題解決能力などは、役に立っていると感じる。しかし、現在の職場では英語を使う機会がないためグローバルな活動としては活かさきれていない。 | SWY (H23) |
| 事業に参加する前から、就職先は決まっていたので就職活動では特に何も影響しておりません。しかし、船の中で海外の青年から仕事以外で夢について聞かれることが多く、自分の人生や今後の夢について何度も考えることができ、最終的に自分のやりたいことが見つかりました。 就職活動時にもよく感じていたことではありますが、日本人は就職活動に重きが置かれすぎているため、就職したら終わりのような感覚がありますが、海外の青年は仕事を通じてなにがしたいのかをよく考え、就職後も会社のぬるま湯につかるのではなく、自分で知識を高めて1人の人として夢に向かって動いている人が多いと思いました。 この事業に参加してからは、仕事だけではなく自分で空いている時間を見つけて勉強し、海外の青年から学んだ、何か特技を身につけるという姿勢で夢に向かって進んでおります。 | SWY (H23) |
| コミュニケーション能力や企画力等の向上は役に立っているが、国際交流関係の仕事ではないため、実感がない。 | SWY (H23) |
| 韓国に対する親近感を持ち、マスコミによる報道だけを鵜呑みにすることなく、時には、批判的に物事を考えられるようになった。 | 韓国 (H20) |
| 中学校で講師をしており、生徒との何気ない会話のなかでも、派遣事業の体験談などを話すことによって、生徒の海外への興味を彼らの身近なものとして掻き立てることができます。 また、知的障害があり文字に対する認識が弱い生徒に対して、派遣で知り合った韓国人の友達の日本語の書き間違い具体例として説明したところ、印象深かったようで、それまで何度言っても直らなかった文字の書き間違いが、少しずつなくなってきました。 このように、「先生はこんな経験をしたことがある」「先生の友達にこんな人がいる」という話を生きた教材として使うことで、生徒は各自で受け止め、それぞれの力にしてくれます。 | 韓国 (H23) |
| 参加をきっかけに物事を多面的にとらえよう、価値観には多様性があるということを日常において意識して思うようになった。 | 韓国 (H23) |

| | |
|--|-------------|
| 営業職なので、国際交流事業の経験を直接形にすることが難しい。 | 韓国 (H23) |
| 常に外国人と関わりのある仕事に就いているが、日本の常識は世界の非常識という考え方で、物事を判断する力が身についた | 中国 (H15) |
| 就職活動では、国の代表として中国へ行ったことに非常に興味を持たれた。帰国後も内閣府国際交流事業で様々な国の方と触れ合う機会に恵まれたので、そのとき得た異文化への適応能力が海外との仕事の際にも役に立っているし、日本人同士でも一人ひとりもっている価値観が違うので、それを寛容に受け入れることができている。 | 中国 (H15) |
| 地元の家庭教育を応援する、ボランティアさんの行政側の窓口担当となっています。皆さんの「自分達のできることで地域の若い子育て世代の力になりたい」という積極的な姿勢が、自分が内閣府の事業に参加して、「社会に役立ちたい」という思いと重なり、行政の立場だけでなくボランティアさんの立場に立って考えることができていると思います。 | 中国 (H20) |
| 市役所勤務なので、何が役立っているかと問われれば、直接的には無い。だから役立っていないのではなく、積極的に場の空気を前へ推進していく力、幅広い視野で物事を俯瞰して見ること、意見が全く違う人とのコミュニケーションなど、客観的にみて、このようなことが仕事や社会活動の上で役立っていると思われる。ネットワークを通じて得ることのできる有用な情報からも常に知的好奇心を得ている。 | 中国 (H23) |